

国立大学の機能強化

—国立大学の自主的・自律的な機能強化を目指して—

我が国は、少子高齢化の急速な進行や長期にわたる経済の停滞、財政構造の悪化など重層的なリスクにさらされています。加えて、東日本大震災からの復興という喫緊の課題に直面しています。

今後とも我が国が魅力的で活力ある国家として発展を持続していくためには、社会のあらゆる分野で革新（イノベーション）を成し遂げていかなければなりません。その文脈において、我が国の教育と研究を担う「人と知恵」の拠点としての国立大学に対する期待は大きく、同時に、その役割を果たすための国立大学の機能強化やガバナンス改革に対する各方面からの要請もまた大きいものがあります。

我々は、先に「我が国の再生と持続的発展を実現するために、今、国立大学は〈ナショナルセンター機能の徹底的強化〉、〈リージョナルセンター機能の抜本的強化〉、〈有機的な連携共同システムとしての機能強化〉を目指す」ことを内容とする「**国立大学の機能強化—国民への約束—**」（平 23. 6. 22 中間まとめ）を公表しました。

この度、この「国民への約束」で掲げた理念や方向性を踏襲しつつ、昨今の社会情勢の変化を踏まえてより重要となってきた点や更にスピード感を持って充実すべき事項等について掘り下げた議論を行い、『**「国立大学改革」の基本的考え方について—国立大学の自主的・自律的な機能強化を目指して—**』（平 25. 5. 2）を取りまとめました。

知識基盤社会において、大学力はまさに国力そのものであり、国立大学は、自主的、自律的に、我が国の成長と発展の原動力として教育研究・社会貢献機能の抜本的強化を図ります。各大学はそれぞれの特色を生かして震災復興と国の持続的発展のために全力を尽くすとともに、全大学が緊密に連携・協力して、近年の閉塞感に満ちた我が国の現状を打破すべく、高度人材育成拠点・知の創造拠点として、グローバル人材の育成や多様な学術研究の展開など、より一層の教育力・研究力の向上に邁進していく決意です。

平成25年5月2日

一般社団法人 国立大学協会



国立大学改革の基本的な考え方

- 各国立大学は教育、研究、地域貢献、国際貢献等の多様な機能を等しく有しており、各々が分化した固有の機能を持っているわけではない。
- 一方、個々の機能を高度化し強化していくために解決すべき共通の課題とともに、規模や地域特性に応じた固有の課題もある。
- しかしながら、これらの課題を規模や組織形態により種別化し、機能を分化し固定化する方向で解決しようとする発想や手法は取るべきではない。短絡的な役割分担論は、国立大学総体の縮小を招き、結果として国立大学総体が有する多様性を失わせるだけである。
- 我々はその課題を、国立大学の有機的な連携システムの高度化を図る中で解決していくべきであるとの立場を堅持する。
- 国立大学の多様性とは、単なる組織形態の多様さや機能別分化によって得られるものではなく、自らのミッションをその時代時代に応じ、あるいは時代を先取りして深化させながら、自律的な判断によって強化すべき機能を志向し、具体的な強化策を明らかにして実行していく際に表現される個性の多様さによるものである。

国立大学の公共的役割の再確認

- 大学における教育研究等は、人的資源の輩出や研究の高度化による科学技術の発展をもたらし、社会に対して大きな便益をもたらしてきた。
- 社会にもたらすこの便益及びその増大への絶えざる期待によって、大学は「公共性」が認められ、投資額を上回る社会的便益が期待されるという理由から、その費用の一定の部分を公的に負担すべき組織体として位置付けられ、特に国立大学については、設置者たる国による公的財政投資がこれまで大きな役割を果たしてきた。
- 国立大学は、我が国の将来を大きく左右する重要な役割を担うことを国民から負託されており、教育や研究が社会に与える便益の質を常に自律的に高めながら、その負託に適切に応えていくことこそが国立大学の存在意義であり、公共的役割の源泉である。

今後強化すべき機能・役割・課題について

—四つの機能と三つの組織形態—

■教育機能：【今後さらに重点的に育成すべき能力・人材像】

- ☆ 国際舞台で活躍するグローバル・リーダーの育成
 - 深い専門性を課題解決に生かせるような汎用力の育成
 - 異文化・異分野を相互に理解できるような高いコミュニケーション能力の育成
- ☆ 社会の各分野においてトップリーダーとなれる人材の育成
- ☆ 次世代の学術を牽引する研究者の育成 など

■研究機能：【今後さらに強化すべき機能】

- ☆ 多様な学術研究の展開
 - 国の規模にふさわしい研究型大学の整備
 - 優れた研究成果を上げている研究拠点の強化
- ☆ 卓越した研究者が競争的環境の中でいち早く成果を上げるための研究専念時間の確保
 - テクニカルスタッフやURA（リサーチ・アドミニストレーター）等による研究支援や知的財産の管理、運用等を専門とする多様な人材が活躍できる体制の整備と適切な評価
- ☆ 若手研究者の研究環境及び女性研究者の積極的登用を可能にするための環境整備
- ☆ 博士学位取得者の社会的地位向上方策の策定 など

■大学病院機能：【今後鮮明にしていくべき役割・機能】

- ☆ 医療の質に関する指標の設定及び社会への開示
 - 医療水準の明示と位置付けの明確化
- ☆ メディカルICTの充実による新しい地域医療提供体制の整備
 - 総合診療医、特定疾患の専門医、専門職医療人の育成と医師派遣機能の強化
- ☆ 新領域医療に対応した診療科の再編・創設とチーム医療の推進
- ☆ グローバル人材育成と国際人事交流の推進
 - 海外での研究・研修の推進及び外国からの医療人の招聘
- ☆ 医師（特に女性医師）の復職の際の支援と再教育システムの構築 など

■地域中核機能：【今後鮮明にしていくべき役割・機能】

- ☆ 地域におけるシンクタンク機能
- ☆ 地域のオピニオンリーダーとして世界的な視野の中で地域の発展を先導する機能
- ☆ 大学間連携等による地域貢献を行う際のコーディネーターとしての役割
- ☆ 行政、住民、産業界の間の課題解決への取組み など

■総合大学：【課題解決方策の方向性】

- ☆ 柔軟な教育研究組織の再編
- ☆ 学長のガバナンスの強化
- ☆ 学長のリーダーシップによる全学的な研究力強化策の推進
- ☆ 部局を超えた資源配分
- ☆ 人文科学・社会科学研究者の国際展開・発信力の強化 など

■単科系大学：【課題解決方策の方向性】

- ☆ 単科系大学の強み（迅速性かつ即応性の高い経営が可能）を生かすガバナンスの強化
- ☆ オンリーワンとなるべき研究の推進
- ☆ より強化した研究拠点の形成
- ☆ 国公立連携や産学官連携を通じた、実践的高度専門人材の育成拠点（全国・地域）の形成
- ☆ 国内外における実践的体験学習機会の積極的な提供 など

■大学院大学：【課題解決方策の方向性】

- ☆ 大学院大学の強み（学部を置かないことにより教育研究体制の構築に向けた組織改編の柔軟性が高い）を生かした大学運営、ガバナンスの強化
- ☆ 多様なバックグラウンドを持つ学生に対する先進的大学院教育体制の整備
- ☆ 強力な研究拠点の形成 など

本リーフレットは、『「国立大学改革」の基本的な考え方について－国立大学の自主的・自律的な機能強化を目指して－』（平成25年5月2日）の要約です。



一般社団法人 国立大学協会
The Japan Association of National Universities
<http://www.janu.jp/>